

収量・品質の向上を図るため、

秋の土づくりで不足成分を補給しましょう！

土づくり肥料の主な成分と効果

ケイ酸

稲はケイ酸を非常に好み、肥料の中でも生育期間中に一番多く吸収する成分です。近年の異常高温に対応するためにも、ケイ酸をしっかり補給することが重要です。

ケイ酸を施用すると、受光態勢が改善され、**光合成が活発**になります。そのため..

- ① 根部からの吸水量が増加し、葉温の急上昇を防ぎます。
- ② 細胞壁が強化され、耐倒伏性、耐病性が高まります。
- ③ デンプンが蓄積され登熟歩高が高まり、食味向上が期待できます。

ケイ酸施用区



無施用区



根量が増加！

鉄・マンガン

鉄: 根腐れなどの生育不良の原因となる**硫化水素の発生を抑える効果**があります。
マンガン: 作物が必要とする微量元素の1つで、**葉緑体の形成に関与**します。



令和6年作においては、**ワキの発生**が多くみられました。県内でも多くの地域で**鉄が不足傾向**にあります。また、**こま葉枯病**が年々増加している地域もあります。

左: ワキの発生した圃場
右: こま葉枯病にかかった稲

おすすめ土づくり肥料



- ① ニューミスター(左上)
・ケイ酸特化型の土づくり肥料。15kg袋で扱いやすい！
- ② アイアンミスター(右上)
・鉄不足の圃場におすすめの鉄特化型肥料！ケイ酸も含む。
- ③ みつパワー(左下)
・マンガンを含む肥料。こま葉枯病発生圃場に！ケイ酸・鉄・苦土も含む。
- ④ 稲サボ(右下)
・堆肥と普通肥料を混合したハイブリッド肥料。
・牛ふん堆肥を約30%混合しており、有機物による土壌改良に加え、リン酸や加里、ケイ酸、苦土、マンガンといった重要な成分を幅広く含む。

○肥料成分一覧

(単位: kg/%)

品名	容量	ケイ酸	苦土	マンガン	鉄	アルカリ	その他
ニューミスター	15	32				32	りん酸:2
アイアンミスター	20	20	1		(30)	26	りん酸:1
みつパワー	20	(25.1)	(2.7)	10	(1.7)	(21.7)	
稲サボ	15	(8)	(3)	(3)			窒素: (0.8) りん酸: (7) 加里: (6)

※ () 内は保証値でなく成分分析例



収穫後の秋すき込みと腐熟促進材のご紹介

■稲わら・もみ殻の秋すき込みにより得られる効果

①稲わらの腐熟促進

圃場の稲わらの腐熟を促進できます。腐熟の促進により、翌年の代かきをしやすくし、
ケイ酸の土壌還元や保水力の向上が期待できます。

②移植後のワキ対策

秋に稲わらを十分に腐熟させることで、ワキの原因となる硫化水素の発生を抑制できます。

③メタンガスの排出量削減

湛水状態で稲わら等の有機物が分解されることで発生するメタンガスですが、秋のすき込みで
有機物の腐熟を促進することでメタンガスの排出が軽減できます。

■おすすめ稲わら分解促進材

アグリ革命・アクア

有機酸生成量の抑制に。秋散布
がおすすめ！スポット散布も可能。



- ・酵素により稲わらを分解する分解促進材。
- ・微生物資材と比較して土壌環境の影響を受けにくい。
- ・粒状タイプは有機JAS栽培にも使用可能。
- ・アクアはラウンドアップ等の除草剤とも混用可能。

ワラ分解キング

10aに10kg(1袋)でOK！
圃場の残さ、残根の分解も！



- ・ワックス分解菌とセルロース分解菌の相乗効果により、稲わらの分解を促進する新しいタイプの分解促進材
- ・低温時の稲わら分解に威力発揮
- ・ワキの発生を抑制し、根張りを良くする。

■秋の稲わらの放置は春の初期生育の抑制や根にダメージを与える恐れがあります！

⚠ 稲わらの多い田んぼは要注意！



稲わら(有機物)分解時の**有機酸**によって根にダメージ

還元状態が進行し、**硫化水素**によって根にダメージ

初期生育の停滞、分げつの遅れ(スタートダッシュ不良)

※出典：(株)ファームフロンティア 藤井弘志「良品質米生産に向けた土づくり・稲づくり」より



稲わら腐熟促進材と鉄資材を
組み合わせることでさらに初期
生育の改善が期待できます！

(肥料農薬部 肥料農薬推進課)

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。